

富田茶臼山古墳 (5世紀前半)

～ヤマト政権との深いつながりを感じさせる

四国最大の前方後円墳～

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 「鳥の目」で
5. アクセス

資料
番号

S4

初版：2025.10.29



1. おすすめポイント

★何といっても「四国最大」の古墳！

比較的墳形も留めています。「なぜここに？」に思いを馳せてみてください。

2. 説明

全長139m、**四国最大の前方後円墳**です。**積石塚古墳**や**双方中円墳**など四国には独自性の強い墳墓がありました（ヤマト政権とは一線を画す意志？）が、この古墳が造られた頃にはすっかりヤマト政権と同調したのでしょうか（図2-2）少なくとも外見上、独自色は感じられません。

一番の不思議は四国最大の古墳が高松平野でも丸亀平野でもなく、なぜここにあるのか？です。図4-5は古代南海道の駅があったと推定されている場所です（参考資料2）。この古墳は現代の津田、引田（あるいは撫養町木津）からの海路や陸路で古代南海道を通じた**ヤマト政権との物質、情報両面での要衝**となったこの地に葬られた当時の四国を代表する大首長墓ではないかと考えます。吉備や出雲よりヤマト優先？

（以上 管理人）

富田茶白山古墳

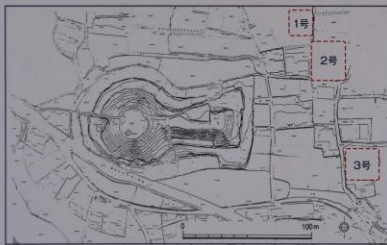
史跡 富田茶白山古墳は、五世紀前半に造られた四国最大の前方後円墳です。

平成元年に行われた確認調査によって、全長は一三九m、後円部の直径九一m・高さ一五・七m、前方部の長さ四八m・幅七七m・高さ十一・八mの大きさであり、四国最大の古墳であることが改めて分かりました。また、墳丘は三段に築かれ、古墳の周囲に周濠がめぐらされていることも分かりました。さらに墳丘や周濠から円筒埴輪や形象埴輪などが発見されました。

この古墳の西側も平成五〇八年にかけて調査が行われ、三基の陪塚が確認されました。陪塚とは、大型の古墳を主墳とし、それに従属するように同じ時期に計画的にその周囲や隣接地にある小型の古墳です。陪塚の大きさは一辺一四〇二四mあり、三基とも四角い形をした方墳です。

これらのことから富田茶白山古墳は、四国を代表する首長墓であることが分かります。

さぬき市教育委員会
さぬき市文化財保護協会



富田茶白山古墳平面図と3基の陪塚位置図

2-1 現地説明板

		三豊		丸亀平野				高松平野				東部海岸・後背平野															
		南部 弘田川下流域		弘田川中流域		大東川下流域		綾川下流域		大東川・綾川中流域		本津川		石清尾山		香東川		春日川		屋島・新川		鴨部川		津田川・津田南		湊川	
古墳時代前期	前半段階	古相																									
	後半段階	古相																									
	新相	新相																									
	新相	新相																									
古墳時代中期	初頭																										
	前葉																										
	中葉																										
	後葉																										
古墳時代後期	前葉																										
	中葉																										
	後葉																										
飛鳥時代前半	前葉																										
	後葉																										

2-2 讃岐地域主要古墳編年表

参考文献1より引用 富田茶白山古墳ハイライト追記

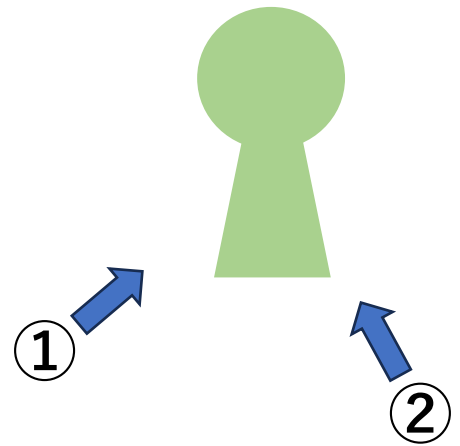
3. 現地写真

2021.3.14

矢視①



3-1



矢視②



3-2



3-3



3-4



3-5



3-6

4. 「鳥の目」で

古墳を手前にして周囲を見渡す
(A～Dは図5-2参照)



A

4-1 東方向を望む
写真右奥に向かうのは白鳥、引田、阿波への道



B

4-2 北東を望む 写真奥に向かうのは津田への道



C

4-3 北北西を望む
海から山を越えた後背平野、津田古墳群方面
写真左遠方には五剣山と屋島が見える



D

4-4 西方向を望む
古代南海道が西に向かっていただろう方面
遠く飯野山も見える。前方部を飯野山に向けた
のか、単純に西に向けたのかはわかりません

あたりを見渡してもここが海の近くであることは感じられませんが、正に後背平野。でも一山超えればもう海です(図5-2)。

津田川の水運(?)、現在の津田、引田からの海運、西へ一直線に伸びる幹線道、大坂を超えての阿波への道・・・要衝です。



4-5

5. アクセス



5-1

Google Mapに追記



5-2

A～Dは
4章参照

Google Mapに追記



5-3

駐車場

参考文献・資料

- 1) 平成26年度 第4回連載講座 石清尾山古墳群稲荷山支群
現地見学会資料 稲荷山姫塚古墳・稲荷山北端1号墳
～古墳時代前期の積石塚前方後円墳の調査～
高松市創造都市推進局文化財課, 2014, 19 p.
- 2) Wikipedia 「南海道」